

海に浮かぶ森

東京の異空間

御蔵島

教育の原点

碧地教育



御蔵島村教育委員会

御蔵島の概要

◆位置

東京から南へ約200km、伊豆諸島のほぼ真ん中に位置する。周囲約16kmの小離島。交通は東京から毎日の大型客船が運航するが海上状況悪化による欠航も多い。ヘリコプターが三宅島・大島方面及び八丈島を毎日1便ずつ結んでいる。住民は国境離島制度及び村の助成の利用で交通費の負担が軽減できる。

◇人口

287人(6/1 現在)の人口は横ばい傾向である。若い世代のU・Iターンや移住が見られるが、住宅が不足している。子どもの数は人口の比から見ると多いが、今後の減少傾向が懸念される。

◆生活

学校、役場、郵便局、農漁協、観光協会、建設業、民宿、商店、イルカに関わる観光業等が主な仕事となっている。漁業、農業のみを主な仕事として生活している方はいない。

生鮮食品、日用雑貨などは2軒の商店と農漁協窓口で扱っている。近年は生活物資をネット購入する方も多い。飲食店は2軒ある（内1軒はお土産の販売もあり）。

郵便局が唯一の金融機関である。診療所、保育園が設置されている。

◇自然



海に流れ落ちる白滝

約100万羽のオオミズナギドリ（オオミズナギドリ）の繁殖地、約150頭のイルカが主な「自然界の住人」である。川が流れ滝もあり、森は深く峡谷は険しく、巨樹が多い。山は伊豆諸島で2番目に高く、亜熱帯から亜高山帯の植物やミクラミヤマクワガタなどの固有種なども見られ「海に浮かぶ森」とも表現される東京都の異空間で、屋久島の小型版と言い表されることもある。

◆観光

東京都版エコツーリズムの島として貴重な自然が多く残されトレッキング及びイルカウォッチングには認定ガイドの同行を義務付けている。約150頭のイルカは、25年以上にわたる個体識別調査ですべて名前がついている。観光客のほとんどはイルカウォッチング目当てのリピーターが多い。宿泊施設は9軒ほどしかなく年間を通して予約を取るのが難しい状態である。



約150頭のイルカが棲む

◇歴史

縄文時代早期(5,6千年前の住居址あり)より人が住んでいた。流人や船の漂着などの話も多く、名所旧跡があちこちにみられる。特に幕末に480名の外国人を救助した「黒船バイキング号漂着事件」の話は東京都の道徳資料集や高校の教科書に採用された。

学校の概要

御蔵島は昔から学校教育に熱心で、伊豆諸島では最も早く明治11年に学校を開校。子どもは「島の宝」として、村役場では学用品、給食、修学旅行、遠足・移動教室、教科活動費など保護者が負担する教育費のほぼすべてを負担している。



島で一番大きな建物

昭和50年に小学校と中学校が一つの校舎として新設落成された。その後平成12年に新校舎、新体育館、新プールが建て替えられ、校舎はひな壇式6階建てで小学校、中学校の合同校舎の併設校である。体育館は1階が温水プールで2階が体育館となっている。ランチルームは全校児童生徒、教職員が一同で給食をとっている。自校方式の給食は作りたてで児童生徒はもちろん教職員にも好評である。校庭は平成20年度に全面芝生化し、平地のほとんどない島では放課後や休日など島の人の利用も多く公園的役割を果たしている。教職員住宅は3か所あり、学校まで徒歩3～15分以内である。

15歳の旅立ちまで

本年度は小学校21名、中学校9名の在籍となった。教職員は27名である。本校は小中併設校であり職員室は一つである。都教委により教員には小中の兼務発令を行い、授業など小中学校の垣根を越えて9年間を見通した教育活動を行っている。ほとんどの学校行事が小中学校合同である。「義務教育学校」の設立が注目されている中ではあるが、教材研究、指導方法、子どもを視る視点など教員としてスキルを広げる環境が既にあり、児童生徒も小中の多彩な専門性をもった教員と接し学ぶことができる。

高校設置の無い島なので、中学校を卒業すると15歳で島を出て親元を離れる「15歳の旅立ち」に向けて、島民の学校教育への期待や責務は大きいところがある。

児童生徒数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
8年度	0	2	6	6	3	4	3	5	1

「碧地」教育でありたい

島にはコンビニもスーパーもない、朝晩の天気予報が必見の自然と共に生きるシンプルな生活となる。学校の門を出ても先生として見られ、慣れないとわずらわしさもあるかもしれない。ほぼみんな知り合いで、地域全体で子どもを大切にしていける風土があり、素朴な子どもたちを取り巻いている。



このような環境からか「教育の原点はへき地にあり」と言われる。情報化社会、目まぐるしく変わる教育環境においても、人が人を育てる根源の精神は大切にしたい。それを感じながら教員として働ける場がへき地には都会よりあるように思われる。ゆえに都会と比べて「僻地」ではあるが、地域の良さ・厳しさを知り、御蔵島でこそこそできる教育環境を生かした「碧地教育」を目指したい。